

進捗報告書（実行団体）

事業名:	孤立解消の為にコミュニティプレイスの運営
資金分配団体:	特定非営利活動法 A C O B A
実行団体名:	手賀沼まんだら
実施時期:	2021年3月～2021年8月
事業対象地域:	千葉県
事業対象者:	事業運営スペースの近隣の子ども、保護者、高齢者

Version 1.0

日付: 2021年9月30日

I. 事業概要

事業概要
コロナ禍でも安心して過ごせる空間「ごちゃにわ」を創出。対象は、安心して過ごせる居場所や遊び場のない子ども達や子育てに課題を抱えた保護者、話し相手が欲しい高齢者、子どもを見ながら働かざるを得ない親など。場づくりの過程から関わる人が主人公となり、場の運営についても関わる人の想いを大切に、話し合い、楽しんで実施する。各世代の孤立解消のツールとして「ごちゃにわ」がどのように機能するかを実証実験する。多様な協働の仕掛けをテストし、コロナ禍で一層希薄となったコミュニティを紡ぎ直す。

II. 進捗報告の概要

総括
荒廃したビニールハウス、長年放置された竹林を背負い、耕作を放棄された農地を子ども達や「ごちゃにわ」の活動に関心を持った大人、学生が集まり、力を合わせて開墾し、草を刈り、ビニールハウス内を片付け、屋根を張り替えて、気持ちよく過ごすことができるようなコミュニティスペースに整備した。椅子やテーブル、物置き等のファニチャーを購入したり、譲っていただいたりして揃え、草刈り機や工具など必要物品については、活動を進めながら適宜用意していった。常に「ごちゃにわ」をメンテナンスする必要がある、想定以上のマンパワーが必要であることが事業を進めていく中で分かった。当初の想定以上に悪化したコロナの感染状況により、緊急事態宣言下となった8月・9月は公園で遊んでいると近隣住民に通報されてしまうと小学生が居場所を求めて来たり、家族にコロナ陽性者が発生したが濃厚接触者となり自宅待機を余儀なくされた子ども達が他の利用者の居ない時間帯に「ごちゃにわ」に来て、リフレッシュするなどのコロナ禍における特徴的な活用が出来た。また、公教育の地域を学ぶ場として「ごちゃにわ」が活用されるケースは想定していなかったが、6月に1校が体験活動を実施、後半もまた別の学校にて体験活動が予定されている。手賀沼アグリビジネスパーク事業推進協議会が観光庁「地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実書事業」として「里山と水辺の課題にチャレンジする新たな教育たいけんプログラム造成事業」が採択され、私たち「手賀沼まんだら」も体験プログラムの開発に協力することとなった。「ごちゃにわ」での体験や、「ごちゃにわ」で実施したプロジェクトをブラッシュアップしていき、「ごちゃにわ」が様々な活用がされることで、多くの人に認知され、コミュニティプレイスを必要としている人に届くようにと試行錯誤している。

III. 活動実績

資金支援

アウトプット (今回の事業実施で達成される状態)	進捗状況
「ごちゃにわ」がコミュニティプレイスとして機能し、孤立解消のツールとなる	「ごちゃにわ」の取組みは、広く一般的に認知されることを目標としていないが、必要な人には届いて欲しいということで、広報の方法については難しさを感じている。頭の中が古臭い大人スタッフはどうしてもより多くの会員の確保や広域、不特定多数の人に対しての広報をしたり、参加人数の多さを求めたりしてしまうが、「ごちゃにわ」の理想、思想を完全に理解している子ども達から「ごちゃにわ」で多くの人が集まるイベントはしないで！チラシをたくさん撒かないで！と釘を刺され、新規会員がぼつぼつと増加する程度の現状で現場は快適に運営できている。一方で、SNSのフォロワーは本事業スタート後、順調に伸びており、たくさんの方が事業に関心を寄せてくれていることも実感している。「ごちゃにわ」を利用する家族はそれぞれに様々な事情があり、また、子育て家庭なので、突発的なトラブルも日常茶飯事ではあるが、「ごちゃにわ」での繋がりが細やかなセーフティーネットとなっており多くの事例が集まっている。

活動	進捗状況	概要
「ごちゃにわ」の場づくり	ほぼ計画通り	<p>荒廃したビニールハウス、長年放置された竹林を背負い、耕作を放棄された農地を子ども達や「ごちゃにわ」の活動に関心を持った大人、学生が集まり、力を合わせて開墾し、草を刈り、ビニールハウス内を片付け、屋根を張り替えて、気持ちよく過ごすことができるようなコミュニティスペースに整備した。椅子やテーブル、物置き等のファニチャーを購入したり、譲っていただいたりして揃え、草刈り機や工具など必要物品については、活動を進めながら適宜用意していった。常に「ごちゃにわ」をメンテナンスする必要がある、想定以上のマンパワーが必要があり、想定以上のマンパワーが必要であることが事業を進めていく中で分かった。真夏をどのようにして過ごすかが事業実施当初からの懸念事項ではあったが、「ごちゃにわ」が背負っている竹林を整備することで、真夏でも快適に過ごすことができることが実証された。しかし、炎天下での草刈り等の場のメンテナンスは命の危険がある為実施できず、夕方の短時間しか動くことができなかつたので、過ごしやすくなった後半に一気に整備を進めていきたい。</p>
「ごちゃにわ」の運営	計画通り	<p>毎週火曜日、水曜日、木曜日の10:00から17:30(7月8月は18:00)を定期的にオープンし、安全確保の為にスタッフが「日直」として在中している。スタッフの確保が出来ない場合には、「ごちゃにわ」常連の会員に「日直」をお願いし、対応している。後半は、より多くの会員に「日直」の役割を担ってもらいたいと考えている。ワークショップは定例的なオープン日以外にも実施している。</p>
「ごちゃにわ」の効果についての計測・調査方法の検討/調査	計画通り	<p>コミュニティに「ごちゃにわ」のような場所があることの効果を計測したいと考え、慶應大学の前野教授が開発した「しあわせの地域風土調査」を前野教授に承諾いただき「ごちゃにわ」バージョンとして作成し、調査を実施している。オープン日は毎日「ごちゃにわ」に来た人の滞在時間、場所、内容、気持ちが悪かったかどうかの調査をしている。実施の様子は全て写真として記録している。</p>
他団体/組織との連携	計画通り	<p>「ごちゃにわ」をコミュニティの意義ある場所として、活用を提案してくれるまちづくりのプロフェッショナルの方々(balloon、EDGEHOUSEなど)、子ども達の無限のクリエイティビティを羽ばたかせるために一緒に一生懸命に汗をかけるの方々(てがぬまバドミントンクラブ、vivita JAPANなど)、仕事と家庭とコミュニティのバランスの中で成り立っている「手賀沼まんだら」を理解し、応援し、更に活動のレベルを引き上げてくれるの方々(手賀沼アグリビジネスパーク事業推進協議会、奥手賀ツーリズムなど)との繋がりの中で、想定以上の場の活用が実現している。</p>

IV. 事業実施後(1年以降)に目標とする状態への所感(中間時点)

自由記述
<p>コロナ禍である現在においては「ごちゃにわ」の存在意義、コミュニティにおいて、こういった場所は不可欠であると言えるが、コロナ終息後のニーズについては社会の状況を鑑みて検討していくことが必要であると思っている。しかし、実感としては、コミュニティにおける繋がりへのニーズはコロナの有無に依らず高いのではないかと感じる。コロナによりオンラインでの繋がり急進に進み、リアルな繋がりがないことに慣れてしまった感はあるが、オンラインの繋がりに参加できない高齢者やリアルな繋がりこそがセーフティネットとなる子育て家庭などもおり、「ここに来れば、知ってる人がいて、安心して素の自分でいられる」ようなコミュニティプレイスに対するニーズが無くなるようなことは無いのではないかと感じる。「ごちゃにわ」を運営していると「フリースクール作って!」「学童クラブになって!」「勉強を教えて!」などの声が寄せられるが、「ごちゃにわ」をコミュニティ commons の場として対象者や仕様を限定せず、柔軟に広げて行きたいと考えている。緩やかな繋がりの中で生まれるアイデアを子どももオトナも一緒にワクワクしながら試行錯誤し、悩んだり、止まったりすることを認められる仲間と場の継続的な運営に向けて、資金とスタッフの確保を検討している。</p>

V. インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	実行団体への助成に充当される費用	¥617,595	¥3,687,370	¥4,304,965	¥2,625,262	61%
	管理的経費	¥77,720	¥675,500	¥753,220	¥400,160	53%
合計		¥695,315	¥4,362,870	¥5,058,185	¥3,025,422	60%

補足説明	2021年8月末までの執行金額になります。
------	-----------------------

VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応
<p>コロナ禍で公園で遊んでいる子ども達の集団がいると学校などに通報されるといふヒステリックな空気に晒されている子どもとその保護者なので、「ごちゃにわ」で遊ぶ子供たちに対して近隣の方々の目は非常に気になる。事業スタート当初は「何をしていますか?」と直接問い合わせて来られる近隣の方もいたが、頻りに挨拶を交わすようになり、次第に受け入れていただけだと思っている。「ごちゃにわ」で遊ぶ子供達の保護者は、スタッフの存在がこのような社会の厳しい(意地悪な?)目から子ども達を守る防波堤の役割を果たしていることで安心しているとのこと。事業後半も引き続き役割を果たしていく。常に場を創り続けることが必須の屋外空間。「ごちゃにわ」を活用する人が活用しやすいように、全体の調和が保てるように配慮しながら自由にデザインを変化させている。事業当初は最初に場を完成させ、その後の中身を整備させていく予定であったが、自然相手の場づくりで、常に一定の状態にならない環境。しかし、それは、私たちの感覚をフル回転させ、予定や計画に対しての柔軟性や対応力を発揮させ、現場力、実行力を鍛えてくれる。ただ、「計画通り」が求められる成果としては「ほぼ計画通り」という報告になってしまう。</p>

VII. その他

自由記述
<p>子ども達にとっての環境とは「彼らの周りにいるオトナたち」のことじゃないかと、「ごちゃにわ」の取組みを通して思う。それは、どんな時でも親やオトナが側にいるということではなく、子どもたちにとっての教育者や保護者としてのオトナではなくて、仕事したり友人と楽しんだりするそのままの姿のおとなが身近にいるということ。ときに真剣に、楽しむときは思いっきり楽しむ、そんなところを見せつけるでもなく、教えるでもなく、そこにいる子どもたちが感じながら育っていくことが自然にできる場として「ごちゃにわ」が機能していることを感じている。「思い通りにならないことを楽しむ」ということが、今年ほど心に突き刺さる夏はない。自然や人間関係、そして、暮らし。社会。「思い通りにならないこと」を強引に、力任せに、理不尽に思い通りにしてしまうオトナたちを子供達は目の当たりにすることが多かった。多様な価値観や人がごちゃごちゃしている「ごちゃにわ」では、「思い通りにならないことを楽しむセンス」が培われる。手賀沼フィッシングセンター納涼祭への出店に向けて楽しく準備していたが直前での緊急事態宣言によるイベント中止。一瞬ガッカリするも即座に「ごちゃにわで夕涼み会を開催して、準備していたお店をやろう!」と切り替え、準備をし、大盛況に開催する対応力、実行力が正に「思い通りにならないことを楽しむセンス」の賜物である。</p>

VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	有	4月「あびこ市民活動ネットワーク 会報」第57号に特別寄稿/6月25日号「ちいき新聞」1面記事「ごちゃにわ」掲載/6月1日号我孫子市ボランティア市民活動「てとりあ」「中高生ボランティア体験教室」参加者募集記事掲載/Facebook 投稿数38件/Instagram投稿数57件
広報制作物等	有	スタッフの名刺、「ごちゃにわ」の案内カード、スタッフユニフォーム、手ぬぐい(本事業に協力していただいた方へのお礼、「ごちゃにわ」の近隣の方々への挨拶用などの目的で作成)
報告書等	有	我孫子市ボランティア市民活動「てとりあ」の主催する「中高生ボランティア体験教室」参加者(30名)へのオリエンテーションの為に「ごちゃにわ」事業についてのスライドを作成し発表した。また、「コープみらい」の主催するオンラインでの「コミュニティの助け合い」の勉強会(参加者90名)で、「手賀沼まんだら」の活動を紹介する中で、「ごちゃにわ」事業についても報告した。

IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	いいえ	
3. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
4. 関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
5. コンプライアンス委員会は定期的を開催されていますか。	いいえ	